

祝 全国公民館報コンクール 須佐地域公民館だよりが 念願の「金賞」を受賞!!

隔年で開催される全国公民館報コンクール(主催/公益社団法人全国公民館連合会)において、「須佐地域公民館だより」が、念願の最高賞「金賞」を受賞しました。コロナ禍で暗いニュースが多い中、今年最初の明るいニュースとなりました。

昭和47年から46年間毎月発行する須佐地域公民館だよりは、地域にはなくてはならない情報源の一つです。地域が情報の過疎にならないために、これからも、職員一同地域の発展と共に邁進したいと思いますので、今後もご期待下さいますようよろしくお願いいたします。

須佐地域公民館だより編集委員一同



金賞受賞の表彰状兼楯



念願の「金賞」受賞！ 全国公民館報コンクール



平成18年より隔年開催で始まった全国公民館報コンクールは、公民館報の更なる発展及び公民館における広報活動の資質向上を図ることを目的に開催されています(主催/公益社団法人全国公民館連合会)。

須佐公民館は、平成20年第2回コンクールに初めて参加。第3回には優良賞を受賞し公民館だよりへの作成に力を入れました。そして、2年後の4回には優秀賞を受賞、その後5・6・7回と4年連続優秀賞となり、最高賞である最優秀賞への壁は大きいものでありました。

そして、昨年初頭コンクールの年を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防による各種行事の中止や延期が続く、地域行事の記事が少なくなり、公民館だより自体作成に困難を極める時期となりました。

そして公民館だより作成に対し、少し冷静に考える機会を得ることができました。それは、コンクールがあることへの意識が強いのではないかと(上手なものを作りたい)。確かに公民館の目標としては、日本一になりたいとの意識は大切ですが、本来の住民目線で紙面作成をしていたかは疑問が残りました。そして、もう一度住民目線に戻り、公民館だより

を作成していかうとの意思再確認をすることができました。



コロナ感染拡大により、記事を奪われたことを切っ掛けに、公民館だよりは、昨年4月号より紙面を一新し、読者に読んでもらう、楽しんでもらう紙面づくりに努めています。

このような経緯が伝わったかどうかは分かりませんが、今回から賞の名称が変わりましたが、無欲で参加したコンクールで、今まで取れなかった最高賞の金賞を受賞するという結果に至りました。公民館では、こ

の賞に甘んじることなく今後も気を引き締め、面白い、楽しい紙面づくりを続けて行きたいと思えますので、どうぞ今後も皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



「金賞」受賞にあたり

NPO法人

須佐元気なまちづくりネット

理事長 津守次一

このたびは念願の全国公民館報コンクール最高賞の「金賞」受賞誠にありがとうございます。

須佐公民館の事業を受託する団体(NPO法人須佐元気なまちづくりネット)を代表しまして、ひとことごあいさつを申し上げます。

須佐公民館だよりは、昭和47年10月に発行された「公民館ニュース」が先駆けとなり、約48年間毎月発行されてきた、日本でも数少ない公民館だよりの一つだと聞いています。

この間に携わってこられた代々の担当者にまず敬意を表したと思います。

さて、地域の生涯教育の中核とも言える公民館は、戦後の復興(昭和24年)の基盤づくりとして、各小学校区に一館を目標に全国でその整備が進められ、現在14,881館が地域の学び舎として今日に至っています。

そして、その公民館活動の一環として行われているのが、公民館だよりなどの広報活動で生涯学習の進め方や学習情報の提供など、公民館活

動の道先案内役を担っています。須佐地域公民館だよりも、幾多の変遷を経ながらも、地域の状況に対応しながら単なるお知らせ版だけではなく、住民双方の情報交換の場となる一方、生涯学習作品の発表の場ともなっています。

特に大きな変化があったのは、平成17年3月の市町村合併以降のことだったと思われれます。平成の大合併では、1市2町4村が一つになったこともあり、新市の市報は7つの地域の情報を伝えるため1ヶ月2回の発行となりました。それでも、市全体をカバーすることは困難を極め、最終的には記事の簡素化が行われ、地域の小さな活動は姿を消さざるを得なくなりました。そんな状況の中、公民館だよりは地域情報をふんだんに掲載することで住民との接点をつなぎとめました。

中でも、平成25年7月28日に発生した山口県北部豪雨災害では、須佐公民館自体も被災し、連日の復旧作業で公民館だよりの発行は不可能かと思われましたが、少しでも被災の現状を住民の皆さんに伝えたいと、わずか4ページではありましたが、しっかりと情報を伝え、逆に見えない被災状況を把握したことは、公民館職員の情熱だと8年前を振り返っているとあります。

引き続き、住民への情報提供の窓口として活躍して頂くことを期待してやみません。



【これまで受賞経歴】

●山口県公民館報コンクール

昭和51年度 奨励賞
 昭和52年度 奨励賞
 昭和54年度 優秀賞 (最高賞)
 昭和55年度 奨励賞
 昭和56年度 奨励賞
 ……
 昭和59年度 優良賞
 昭和60年度 奨励賞
 昭和64年度 奨励賞
 平成元年度 優良賞



… 10年間 優秀賞 (最高賞)
 平成10年度 優良賞
 平成14年度 優良賞
 平成15年度 優良賞
 平成18年度 特別賞
 平成19年度 奨励賞
 平成20年度 会長賞 (最高賞)
 平成21年度 優秀賞
 平成22年度 優良賞
 平成23年度 会長賞 (最高賞)
 平成24年度 会長賞 (最高賞)
 …… 3年間 優秀賞
 平成26年度 優秀賞

※以後県コンには応募なし

●全国公民館報コンクール

第2回(H20年度) 一次審査通過
 第3回(H22年度) 優良賞
 第4回(H24年度) 優良賞
 …… 4回連続 優秀賞
 第7回(H30年度) 金賞
 第8回(R2年度) (最高賞)

〈広報作り15年の想い〉

緒方 恵美子

平成17年10月に須佐公民館の仕事に就いて以来、今16年目に入り3ヶ月が過ぎようとしています。就いた当時は、まだ自宅にパソコンが置いてなく、臨時で働いていた職場で、文章打ちをたしなむ程度のものでした。公民館だよりを任せられた時には、「私にできるかなあ」ととても不安でしたが、当時、隣に座っていた派遣社会教育主事の方に、パソコンの使い方を手とり足取り教えて頂き、何とかここまで続けることができました。

また、その後も、取材の仕方や写真の撮り方なども学びながら、この公民館だよりを作成してきました。皆さんに愛読していただいている「須佐地域公民館だより」は、発行当初の第1号(昭和48年)から、ずっと毎月発行しております。「先輩から受け継がれてきたこの記録は、決して絶やさない」という信念を持って頑張っています。辛いくとも多々ありますが、記事のボリュームが月ごとに違



公民館だより編集メンバー

埋めようか悩んだり、仕事が休みの日も情報があれば、カメラを持って取材に行ったりすることもありません。また、発行が終わらないうちに、同時進行で次号の記事も考えておかなければ、ひと月経つのはアツという間なのでほんとに大変です。

しかし、取材を重ねていくうちに、須佐地域の歴史や文化、地域情報など、いろんなことを知ることができ、また住民の皆さんと触れ合うことで、小さい子どもさんから多くの住民の皆さんに声をかけられ、公民館だよりを通して、自分のことをいっても見ていて下さっているんだという思いが、「次も頑張ろう！」という気持ちにさせてくれます。

また、取材に応じてくださる住民の皆さんや、記事作りをいつも見守って編集に携わって下さっている公民館スタッフの皆さんのお陰で、今では全国にも通用する公民館だよりとなりました。(感謝、感謝です。)

これからも、いろんな場面に遭遇し、また、私自身もこの広報紙作りがいつまで続けられるか分かりませんが、公民館だよりが皆さんの生活の一部となるよう、いつも『笑顔』をモットーに、今後も住民の皆さんとの触れ合いを大切にしていきたいと思いたいです。どうぞよろしくお願いたします。



公民館だよりは地域の歴史

一億創生(国が1億を各市町村に配った)事業で、旧須佐町は須佐の自治・産業・歴史・民俗等をまとめた町誌を平成5年に発行し、各家庭に一冊ずつ配布されました。それから約30年の月日が経過したまにページをめくると懐かしさを感じます。

平成17年の市町村合併まで発行してきた「広報すさ」も3月で終わっており、歴史が途絶えたかに見えますが、実はその前後も、公民館だよりが地域の動きを着実に文字として残しています。他の地域では、公民館だよりの無い地域もあります。他の地域に比べると、公民館だよりがあるから今も歴史が繋がっています。育英館から始まる須佐の教育の底深さを痛感しています。

4月から「公民館奮闘記」掲載

今年4月から、公民館だよりをめぐりながら、50年の歴史を振り返ってみようかと思えます。「ああだったなあ、こうだったな」と、当時の様子を聞いたり、写真を見たりして懐かしんでみたいと思いたいです。そして、たまにはご意見も聞いたりするコーナーが出来ればと思います。乞うご期待ください。 m